



現地の状況を説明する三宅医師

## リハビリセンター建設

インド西部 アジア医師協が計画

九月末の大地震で多数の死者が出たインド西部のマハラシュトラ州に医師を派遣していた「アジア医師連絡協議会（AMDA）」（本部・岡山市櫛津、菅波茂代表）は十九日、帰国報告を行い、現地にリハビリテーションセンターを作る計画を発表した。

AMDAは緊急医療を目的に今月初め三宅和久医師（三）ら十人を派遣したが、すでに現地医師らによる緊急医療体制が整っていた。その一方で、今後は骨折や

四肢切断患者のリハビリ施設が必要になることが分かり、一、二年間をメドにセンターを作ることになった。

計画では、マ州のソラールに約六〇平方メートルの仮設の建物を建設。整形外科医や理学療法士などインド国内のスタッフを中心に配置し、リハビリに当たる。経費は約一千万円とみられ募金を募っている。問い合わせはAMDA事務局（086・284・7730）へ。